

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校 名古屋ビジュアルアーツ	1977/4/1	中川 貴司	〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-16-23 (電話) 052-263-0906																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人東京安達学園	1967/1/12	安達 暁子	〒102-0081 東京都千代田区四番町11 (電話) 03-5283-6288																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
工業	工業専門課程	音響学科	平成19年文部科学省 告示第21号	—																							
学科の目的	本学科は音響エンジニア業界等の順次性のある体系的なカリキュラムを編成する。学生にとって音響現場と繋がっている授業カリキュラムや必要な汎用性技能を職業教育の場として企業と共に振興していき高水準の授業カリキュラムの提供と人材育成することを目的とする。																										
認定年月日	平成26年 3月 31日(職業実践専門課程)																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	120単位	36単位	32単位	40単位	—	36単位																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
240人	258人	0人	3人	16人	19人																						
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ・出席日数+平常点+実習評価 ・テスト(5段階評価)																						
長期休み	■学年始: 4月13日～2月16日 ■夏季: 7月22日～9月 3日 ■冬季: 12月23日～1月 8日 ■学年末: 3月5日			卒業・進級 条件	・所定の課程を納め試験に合格した者 ・平素の成績及び堪酌し進級/卒業を認める																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別学習支援・場合によっては、家庭訪問			課外活動	■課外活動の種類 地域イベントのボランティア参加																						
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 音響業界 株式会社三光、四季株式会社、デライト株式会社 等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)																						
	■就職指導内容 個別面談・履歴書添削・面接練習 またキャリアガイダンス授業にて就職活動のやり方・就職意識を培うと共に、グループワークを通じて協調性コミュニケーション力を高める指導を行う。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>映像音響処理技術者資格認定試験</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>舞台・テレビジョン照明技術者資格認定試験</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>27人</td> <td>4段階ランク認定</td> </tr> <tr> <td>Pro Tools技術認定試験</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>4段階ランク認定</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	映像音響処理技術者資格認定試験	③	18人	13人	舞台・テレビジョン照明技術者資格認定試験	③	7人	7人	サウンドレコーディング技術認定試験	③	27人	4段階ランク認定	Pro Tools技術認定試験	③	28人	4段階ランク認定
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																						
	映像音響処理技術者資格認定試験	③	18人		13人																						
舞台・テレビジョン照明技術者資格認定試験	③	7人	7人																								
サウンドレコーディング技術認定試験	③	27人	4段階ランク認定																								
Pro Tools技術認定試験	③	28人	4段階ランク認定																								
■卒業者数 104 人 ■就職希望者数 96 人 ■就職率 94.8 % ■卒業者に占める就職者の割合 87.5 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																								
■その他 ・進学者数 0名			■自由記述欄 —																								
(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)																											
中途退学 の現状	■中途退学者 16 名 平成28年4月1日時点において、在学者252名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者236名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更・経済・病気			■中退率 6.3 %																							
■中退防止・中退者支援のための取組 担任活動による家庭訪問、三者面談・心理カウンセラーによる「こころの相談室」設置																											
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	http://www.n-visual.net/																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

各分野のエキスパートになるための専門知識・技術の習得と教養豊かな人間を形成する境域により、社会人基礎力・人間力・基礎学力を基本とし、専門知識・技術の習得と実務への適応力、自己啓発・自己形成の意欲向上、社会貢献できる人材を育成する授業カリキュラムの編成をおこなう。授業カリキュラムの編成にあたり、本校の職員のみならず、外部の企業・業界の有識者と連携し、より実践的な授業科目の開設や業界の動向を含めた授業内容の改善をおこなうことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

学科運営の取決事項に係る会議体において、本委員会での事案を審議する位置付けとする。

<教育課程編成委員会の位置づけ>

校長の下に組織され、教育基本法、学校教育法及び専修学校設置基準、専門学校名古屋ビジュアルアーツの定める諸規定に基づき、教育カリキュラムを編成する。

<委員会審議が採用されるプロセス>

- 1.教育課程編成委員会における提案・改善等の事項
↓
- 2.校長は、学科長に対して、教育課程編成委員会における提案・改善等の事項を踏まえた授業カリキュラムを作成
↓
- 3.校長は、2.で作成した改定案のとりまとめを行う
↓
- 4.校長は、評議会・理事会(学科運営の取決事項に係る会議体)において、事案の審議要求を行う
↓
- 5.議決(採用内容は、学則等へ反映し、授業カリキュラムを変更)

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
市川裕之	東海PGC事務局 顧問	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
松本幹男	有限会社松本電波家本舗 代表	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
大西章美	セントラル・ミュージックエンタテインメント株式会社 代表	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
河合直樹	株式会社NTB 代表	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(3月下旬・9月下旬)を基本とする。但し、開催時期の変更・追加開催を行う場合がある。

(開催日時)

第1回 平成28年3月27日 17:00～19:00

第2回 平成28年9月26日 17:00～19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

第1回(年度学科運営:計画事案)

委員会より、即戦力としての期待。また一つのジャンルに留まらずマルチな働きが出来る人材育成への要望

→1年次から様々な分野の修行を実施する意図を学生に再確認させる。

→2年次の各専門分野の授業において、即戦力を排出すべく、企業やゲストを招きより実践に近い形式での授業運営への改変を実施する。

第2回(年度学科運営:進捗事案)

→各案件・・・予定どおり進捗

→現場実習では、人の動きが煩雑になりやすい。事故が起こった時の対策も合わせて、不足の事態に対応できる動きをする。

→現場のプロフェッショナルの直接指導により機材取扱の技術向上が、業界の声として伺う。継続して実践する。

→本学科の特色である照明、音響(レコーディング含む)について、企画制作(多分野のカテゴリー)までの実践教育を今後も継続する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

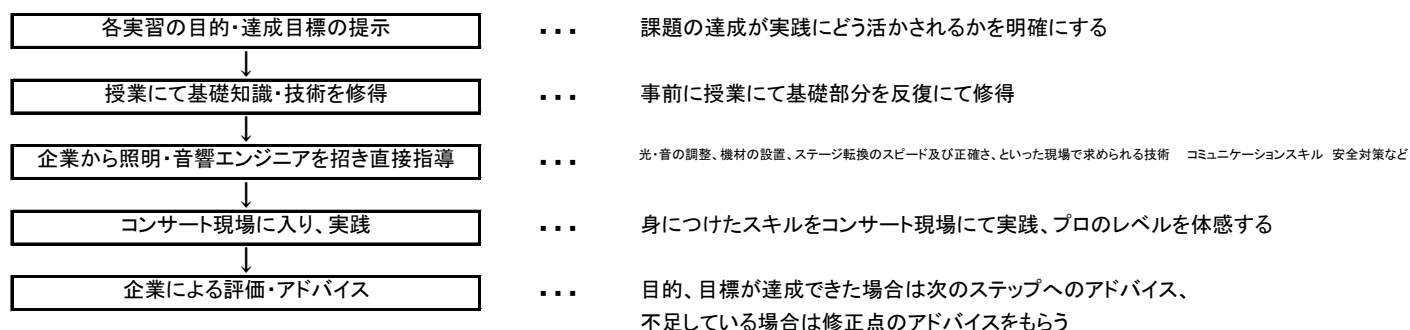
近年の技術・仕事の多様化に伴い高度職業専門人に求められる業務領域は無限大である。このような社会情勢に学生が対応すべく、業界の知識を第一線で活躍している企業等より「現場力」を養うことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業との連携関係においては、学生が企業の仕事を理解するために、企業から実務に即した講義を受け、実習を通じて打合せ等を重ね、業界・業務水準を体感できる内容とする。

<連携内容の具体>

名古屋の大手照明会社である「株式会社三光」等の企業より、コンサート現場で活躍する照明・音響エンジニアを招き、技術やコミュニケーションなど必要なスキルの直接指導を受ける。
また、四季株式会社などの舞台・ホール見学を行い、安全面や演出効果等についても直接指導を受ける。
指導を受けた後、実際にコンサートやミュージカルの現場に入り、実践にて活かされているかの評価をいただく。



(3) 具体的な連携

科目名	科目概要	連携企業等
電子音楽基礎	照明現場における技術、コミュニケーション、チームワークなど総合的な照明エンジニアのスキルを実践にて学びます。産学連携では、現場の業界人を特別講師として、照明機材取扱いのレクチャーを受け、実践意識を身に付ける。	株式会社三光
PA実習	PA現場における技術、コミュニケーション、チームワークなど総合的なPAエンジニアのスキルを実践にて学びます。産学連携では、現場の業界人を特別講師として、音響機材取扱いのレクチャーを受け、実践意識を身に付ける。	ties
ベーシックゼミ	劇場での実習を通じて舞台機構について学び、実際に実施するイベントを見据えた舞台に関する必要スキルを身につけます。産学連携として、企業が手掛けるバレエ楽団・演劇の公演において舞台制作(セット配置)を行う。	株式会社制作舎
音楽録音制作実習	基本的な録音の技術とスタジオレコーディングにおけるスタッフワークの基礎を録音スタジオでの実習を通じて学びます。産学連携では、連携企業のスタジオにて、レコーディング(音源録音)の業務を実践し、知識・技術を高める。	Vox Box Studio
イベント制作実習	プランしたイベントを実行するためにすべき事柄の把握と、実施に向けた準備を行い、実際に実施・運営します。連携企業が手掛けるミュージカル演出(照明・音響)を主体に、現場実習を行う。	四季株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

企業と連携した研修は、教員に対して職務の遂行に必要な知識、技能等の修得と、学生指導や学生に対しての各種個別カウンセリング能力の向上により、教員の資質等の向上を図ることを基本方針とする。また、研修は、校長により計画・実施され、教員の勤務年数や性行、学生アンケート結果、学生の退学率や就職率等により判断し、当該教員に必要と思われる研修を受けさせるよう努めなければならない。また、教員はその研修に対し企業の指導が効果的に実施されるよう従い、自身の知識、技術の修得や学生指導力等の向上に努めなければならない。

<研修等計画の具体>

・年度計画・・・基本として、毎年度作成により実施
※但し、学校運営の進行において、校長が必要と判断した場合、以下のプロセスを経て実施

- 1.「学科長は、企業等からの業界情報および教育編成委員より指摘事項の共有」→2.「学科長は、研修等案(対策・対応案)を作成」
- 3.「定期週内会議にて報告し、当該教員の研修時期と内容を定める」→4.「校長の承認」→5.「研修・講習等の参加」
- 6.「定期週内会議報告(進捗含む)」→7.「状態に応じて教育反映の精査(校長判断による)」

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

・最新演出効果研修 平成28年7月6日(水)～7月8日(金) 研修者:学科長
ライブエンターテインメントEXPOにて、演出効果の研修を行う。「株式会社ディスクガレージ」など業界の第一線で活躍する企業のセミナーに参加。エンターテインメントの「今」と「これから」の考え方や最新の演出・魅せ方などを修得した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・PA人材育成研修 平成28年10月17日(月) 研修者:音響学科教員1名
ライブハウス「NAGOYA CLUB QUATTRO」のPAエンジニア富永氏による業界セミナーに参加。
音楽業界のこれからに関して意見交換を行う中で、現場に求められる人材や実際に現場で人材を育てるためのノウハウを学んだ。
学生の個性を活かしながらも、現場で活躍できる人材育成方法の向上に繋がった。

・レコーディングエンジニア養成研修 平成29年 2月25日(土) 研修者:音響学科教員2名

「日本音楽スタジオ協会」による新プロ・エンジニア養成セミナーに参加。
東京の各所レコーディングスタジオのエンジニアが集い、講義・意見交換を行った。レコーディングスタジオで求められるスキル及び環境、またその変容について学んだ。「現場の生の声を届けること」を指導に取り入れたことが、学生の就職活動への意識向上に繋がった。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

・最新機器研修 平成29年11月15日(水)～11月17日(金) 研修者:音響学科教員1名予定
最大規模の最新放送機器展である「Inter Bee 2017」に参加を予定。
スピーカーをはじめとする最新機器の勉強を目的とする。また株式会社MSI JAPANのエンジニアなどによるLIVE SOUND構築のセミナーに参加を予定。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・テーマパーク照明・音響研修 平成29年6月3日(土)～4日(日) 研修者:音響学科教員2名予定
主要テーマパークにて演出事業を手がける「株式会社ハートス」との連携による研修会を計画。
テーマパークでの仕事に関するセミナーを聴き、必要なスキル、コンサート現場とテーマパークの違い、及び人間力とその磨き方を知るにより指導力の修得・向上に繋げたい。

・舞台機構技能検定・取得のための研修 平成29年6月6日(火) 研修者:音響学科教員2名予定

「株式会社若尾総合舞台」による舞台機構技能検定・資格試験対策特別講義に参加予定。
国家資格である本資格取得のための講義に参加することにより、舞台技術者に求められる基本レベルの確認と学生に一定のスキルを身につけさせる指導方法の修得・向上を図る。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「学校点検・自己評価」をもとに企業・業界、卒業生や地域住民を含めた「学校関係者評価」を実施しホームページ上で公開を行うとともに、その結果を踏まえた学校運営の改善に取組み本校学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう学校運営の改善と充実を目指す事を基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか
	2 学校における職業教育の特色は何か
	3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
	4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生保護者等に周知されているか
	5 各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	1 目的等に沿った運営方針が策定されているか
	2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
	3 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化され有効に機能しているか
	4 人事、給与に関する規定等は整備されているか
	5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか
	6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
	7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
	8 情報システム化等による業務の効率化がはかられているか
(3) 教育活動	1 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
	2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
	3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか
	4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか
	5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか
	6 関連分野における実践的な職業教育(産業連携によるインターンシップ実技、実習等)が体系的に位置づけられているか
	7 授業評価の実施・評価体制はあるか
	8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
	9 成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか
	10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
	11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
	12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務業務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか
	13 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか

	14 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	1 就職率の向上がはかられているか
	2 資格取得率の向上がはかられているか
	3 退学率の低減が図られているか
	4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
	5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
	2 学生相談に関する体制は整備されているか
	3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
	4 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか
	5 課外活動に対する支援体制は整備されているか
	6 学生の生活環境への支援はおこなわれているか
	7 保護者と適切に連携しているか
	8 卒業生への支援体制はあるか
	9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
(6) 教育環境	1 施設・設備は教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか
	2 学内外の実習施設、インターンシップ海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
	3 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	1 学生募集活動は、適正に行われているか
	2 学生募集活動において教育効果は正確につたえられているか
	3 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
	2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
	3 財務について会計監査が適正におこなわれているか
	4 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
	2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
	3 自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか
	4 自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか
	2 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか
	3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	1 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか
	2 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわ
	3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか
	4 学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

音響学科に関わる事項

(2) 学校運営「情報のシステム化等による業務の効率化」

●委員評価 ⇒ セキュリティ及び情報管理徹底の提言

○学科活用 ⇒ 音響学科は学生数が多いため、情報管理方法の工夫と教員PCのセキュリティソフト更新

(4) 学修成果 「卒業後のキャリア形成…学校の教育活動の改善に活用されているか」

●委員評価 ⇒ より卒業生との連絡を密にし、現場の声を学生にとどけるべき

○学科活用 ⇒ 就職課と協力をして卒業生の現状把握をすると共に、情報収集するためのシステム構築、また業界セミナーとして卒業生を招き、学生へのアドバイスをもらう

(5) 学生支援 「卒業生への支援体制はあるか」

●委員評価 ⇒ 在校生のみならず、卒業生に関しても、業界に送り出す窓口になってほしい

○学科活用 ⇒ 即戦力を求められる求人情報もあるため、そのような情報を学科と就職課が協力をして卒業生に積極的に発信する仕組みを検討

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
重水 満仁	公益社団法人 日本照明家協会 理事	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界団体
土屋 敏朗	社団法人 日本広告写真家協会 参与	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界団体
和田 圭市	株式会社 シーシーワーク 代表	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業
久保田 一成	税理士法人横須賀・久保田 (本学園・名古屋地区監査)	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	税理士
渡辺 律子	専門学校名古屋ビジュアルアーツ 卒業生代表	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	卒業生
田島 治郎	栄東まちづくりの会 顧問 (地域住民代表)	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ:年次更新<8月予定>)

URL:<http://www.n-visual.net/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等関係者に情報提供することで相互の対話が促進され、学校内外の実習・就職指導など企業等との連携による活動の充実や産業界のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善をする意図がある。その他、地域住民等に情報公開することで地域に関わる取組みの理解支援を得る。また入学検討者等に対し希望する進路・将来進む業界へ合致しているか明確に示すことや進路指導

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	1 校長名 2 所在地 3 連絡先 4 沿革 5 施設・設備 6 組織図
(2)各学科等の教育	1 定員数 2 目指す資格 3 取得資格 4 主な卒業後の進路
(3)教職員	1 教職員人数・構成
(4)キャリア教育・実践的職業教育	1 就職支援等の取組
(5)様々な教育活動・教育環境	1 学校行事
(6)学生の生活支援	1 心のケア
(7)学生納付金・修学支援	1 学費 2 修学支援
(8)学校の財務	1 貸借対照表
(9)学校評価	1 自己評価報告書 2 学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	-
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

本学ホームページにて、下記8項目について情報を公開しています。

- ・学校概要
- ・学生納付金・修学支援
- ・募集学科・募集定員
- ・組織図
- ・自己評価報告書
- ・学校関係者評価報告書
- ・財務
- ・職業実践専門課程の基本情報

トップページ → 情報公開 (最下部右) → 各項目ごとに公開 ・ pdfファイルにて閲覧可能

<http://www.nag.ac.jp/evaluation/nva.html>

URL:<http://www.n-visual.net/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 音響学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			電子音楽基礎	照明の基礎とステージを作るまで。灯台の正しい取り扱いから証明の基礎、光と色の演出について学びます。	1通	64	4	○			○				○	
○			音楽	音楽の基礎を歴史より学び、ミュージシャンとの共通言語である楽譜の読解力を高める、エンジニアとして最低限の楽器の知識を高めることが目的である。	1通	64	4	○			○				○	
○			表現発表研究	簡単なENG制作、スタジオ番組制作を行いながら、スタジオ照明技術を学びます。	2通	128	8	○			○					○
○			電子音楽実習	業界標準である PROTOOLS による卒業制作のレコーディング、ミキシングまでの習得。PROTOOLS101合格を目指します。	1通	128	8	○			○					○
○			DTM基礎	PROTOOLS 内にある音楽の打ち込みに関する基礎実習。音楽制作（音楽理論）を実習を通じて学ぶ。	1通	64	4	○			○					○
○			ミックスワーク	卒業制作のレコーディング、ミキシング PROTOOLS101合格を目指します。	1/2通	256	16				○	○			○	
○			PA基礎	基本的な技術の習得。マイクからスピーカーまでの信号の流れ。オペレーション。	1通	64	4	△	○	○						○
○			音楽録音制作実習	レコーディングスタジオでのマナーテープを使っている録音実習です。スタジオ内機材の使い方から4リズムの録音ができるまで。	1通	128	8				○	○				○ ○
○			ベーシックゼミ	舞台に関して座学を中心とした内容。現在でも古くからある尺貫法等、舞台用語に関して知識をつける。イベント前では現場（ホール・会館）での実習を含む	1通	128	8	○		△	○					○ ○
○			PA実習	音響（PA）技術の習得と、繰り返し実践することでチームワークを学ぶ。作業の目的、目標を具体的にし、チームの中の自分の位置づけ、コミュニケーション能力を身につける。	2通	64	4	△	○	○						○ ○
○			電気工学	音響概論では音に関する補助単位から講義をおこない学期中間にはスピーカー原理を学ぶ。そして、授業後半にはデジタル録音といった幅広い分野を学ぶ授業である。	2通	64	4	○			○					○

○		作品研究	音楽作品やドキュメントを見て、内容から作品の伝えようとしている意味をくみ取り、考察分を書けるまで。	2通	128	8	○		○	○								
○		楽器音源研究	卒業制作を始めとする各種のイベントと通じ、イベント制作に必要な作業のノウハウ、トラブルシューティングを学んでもらう。最終的には卒業制作を無事遂行させることを目標とする。	2通	64	4		○	△	○			○					
○		イベント制作実習	本講義では「年間行事」、「卒業制作」といったイベントに向けて、プランを実行するためにすべき事柄の把握と、実施に向けた準備（制作）を行い、計画したイベントを実施・運営する	2通	128	8		△	○	○							○	○
○		効果音楽研究	アイデアを出して音での表現や形を作る。まずは「内容の制作」そして「チームで伝達する能力」、最後に「制作する技術」ということになります。「考え、伝え、共同制作を目指す」	2通	64	4			○	○								○
	○	コンピューターミュージック	コンピューターを利用して、簡単な映像作品を作り、音を付けて作品にする。マルチオーディオ実習	1通	128	8		△	○	○								○
	○	ドラマ制作実習	企画（アイデア）からパワーポイントを使い（具体的な）書類作成を学びます。	1通	128	8		△		○	○							○
	○	サウンドグラフィックス研究	卒業制作の窓口となります。各専攻学科とのコミュニケーションの確立。学生の自主性、積極性を持った取り組み方の育成。	1通	64	4		○	△		○							○
	○	エフェクトワーク	この授業では、学生それぞれが「A&R」と「アーティスト（バンド、ソロ、ミュージシャン、ソングライター）」のポジションに別れ、アーティストの発掘からデビューまでのシュミレーションをする。	2通	64	4		△	○		○							○
	○	SRミキシング	舞台監督に必要な舞台知識、実習を通じて習得していきます。講義もありペーパーテストを行う。	2通	128	8			△	○	○							○
	○	音楽ビジネス	音楽産業における業種の役割と必要性を学ぶことにより多岐にわたり複雑に作用しあう産業構造を体系的に捉え、全体像を掴む。著作権や原盤権に代表される各種権利関係を学ぶ	2通	128	8		○			○							○
		インターンシップ	期間を定め、企業研修として、実際の現場で研修を行う。現場感を身に付けていくことを目的とする。	2通	128	8					○		○	○				
合計					22	科目	2304単位時間(144単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：所定の課程を修了し、試験に合格した者について平素の成績及び性を助動的に認める。 履修方法：2年間4期制の授業を受講。所定の単位数を取得しなければならない。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週